

令和3年度 学校評価実施報告書

学校名（七条中学校）

教育目標	
「自主・自律・共創(Co-クリエイティブ)」 ～社会や人とのつながりの中で、自らを律し主体的に学び、 共に未来を創造する生徒の育成～	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月25日	学校運営協議会
最終評価		

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標
社会とのつながり・接続を実感できる授業への改善、主体的に学び合い、新しい価値を創造する力を育む。
具体的な取組
①基礎的・基本的な知識・技能の習得と、言語活動の充実をめざし、教科主任会・教科会を十分に機能させ、授業を積極的に改善する。
②家庭の環境に左右されることなく、 <u>生徒の学びを保証</u> するためG I G Aスクール構想を計画的に推進する。
③身につけた知識・技能の活用を目指し、課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」を育成するための学習活動を積極的に取り入れる。
④生徒一人ひとりのニーズに応じた指導を徹底し、生徒一人ひとりの力を着実に伸ばす。
⑤「学習確認プログラム」「全国学力・学習状況調査」等の結果をもとに生徒の学力の実態を分析して、指導計画の工夫・改善に心がけ生徒が自ら学ぼうとする姿勢を培う。
⑥キャリア教育の視点に立ち、「総合的な学習の時間」「特別活動」「道徳」を軸に教科横断的・縦断的

にカリキュラムをデザインすることで、学習内容を明確にし、探究力・課題解決能力を育成する。

⑦家庭学習の充実、生徒の「やる気」を起こさせる課題の開発と共にPC端末の活用を模索する。

⑧読書指導（朝読書の継続）・図書館教育の充実を図る。

⑨「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。新しい教育課程のもと、指導と評価の一体化をより充実させる。

P D C Aサイクル、外部資源の積極的活用、G I G A端末の活用により、誰一人取り残さない「個に応じた指導」のためのカリキュラムマネジメントを推進する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・G I G Aスクールを進めるなかで、「生徒ふりかえり」を活用
- ・「保護者意見」を改善に活用
- ・指導主事からの評価
- ・ジョイントプログラム、学習確認プログラム、全国学力・学習状況調査の結果分析。
- ・生徒及び保護者アンケートの結果。

及び上記の相関があるかどうかも分析

[保護者編]

- ① 子どもの良いところをほめるなどして自身を持たせるようにしている。
- ② 子どもに努力することの大切さを伝えている
- ③ 子どもに最後までやり抜くことの大切さを伝えている
- ④ 毎日子どもに朝食を食べさせている
- ⑤ 地域社会などのボランティア活動等に参加するよう子どもに促している
- ⑥ 学校の出来事、友達のこと、勉強や成績のこと、将来や進路、地域や社会の出来事やニュースなどの会話が多い
- ⑦ テレビ、ビデオ、DVD、を見たり、聞いたりする時間などのルールを決めている
- ⑧ 将来、子どもに留学をしてほしいと思っている
- ⑨ 自分の考えをしっかりと伝えられるようになることを重視している
- ⑩ 地域や社会に貢献するなどの役に立つ人間になることを重視している
- ⑪ 学校はわかる授業をしている
- ⑫ 学校の学びは社会で生きるものになっている
- ⑬ 学校に楽しく通えている

[生徒編]

- ① ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある
- ② 難しい問題でも失敗を恐れないで挑戦している
- ③ 自分には良いところがあると思う
- ④ 友達の前で自分の考えや意見を発表し伝えることができる
- ⑤ 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる
- ⑥ 友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる
- ⑦ 話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見の良さを生かしたり、折合いを付けたりして話し合い意見をまとめている

- ⑧ 学級などみんなで協力して何かをやり遂げ嬉しかったことがある
- ⑨ 熱意をもって学習している
- ⑩ 授業中の私語が少なく落ち着いている
- ⑪ 学校の授業はわかる
- ⑫ 学校の学びは社会で活きるものになっている
- ⑬ 学校に楽しく通えている

※これらの中から、100に満たない内容に注目し、学力との相関関係を分析したい。

中間評価

各種指標結果

(1年生) ジョイントプログラムテスト

総合+2.8 国語+0.7 数学+5.0

- ・全市平均を上回ることはできた。
- ・国語では、「書くこと」の数値が高く、「読むこと」(文章の読解)の数値が低い。
- ・数学では「数と計算」の数値が高く、「変化と関係」の数値が低い。
- ・予習復習共に、家庭での学習を行っている割合が高い。
- ・読書をしている時間の割合が高い。

(2年生) 学習確認プログラムテスト

総合-2.8 国語-0.9 社会-4.9 数学-0.4 理科-1.4 英語-6.7

- ・全市平均を下回っているが、昨年度後期から国語・数学・理科は少しづつ数値が上昇している。
- ・国語では、「話すこと・聞くこと」の数値が比較的高く、「読むこと」(文章の読解)の数値が低い傾向にある。
- ・社会では、「歴史分野」の値が低い。
- ・数学では、「数と式の値」が高く、「データの活用」は低い傾向にある。
- ・理科では「生物分野」の値が高く、「物理分野」が低い傾向にある。
- ・英語では「読むこと」の値が比較的平均値に近く、「書くこと・聞くこと」の値が低い。
- ・全教科、「知識・技能」は平均または高く、「思考・判断・表現」の観点の値が低い傾向にある。

(3年生) 全国学力状況調査・学習確認プログラムテスト

(全国学力状況調査)

- ・国語・数学共に全国平均京都府平均並み。
- ・国語 「話すこと・聞くこと」が高く、「書くこと・読むこと」が低い傾向にある。
- ・数学「数と式・関数」が高く、「図形・資料の活用」が低い傾向にある。
- ・アンケートでは、努力・協力などに関する意識が高く、将来に関する意識、家庭での学習習慣に関しては意識の低さが見られた。
- ・読書の時間が比較的少ない

(学習確認プログラム)

- ・総合-1.2 国語+1.2 社会+0.5 数学-1.5 理科-2.7 英語-2.7
- ・国語は領域、観点共に比較的高い傾向にある。
- ・社会は「歴史分野」が低い傾向にある。

- ・数学は「関数・データの活用」が低い傾向にある。
- ・理科は「生物分野」が平均的である。
- ・英語は「読むこと」が高く、「聞くこと・書くこと」が低い傾向にある。
- ・比較的、「知識・技能」が平均または高めで「思考・判断・表現」の観点が低い傾向にある。

学校評価アンケート

◎ (生徒 388人中) 私は、朝読書の時間に読書ができる

実現度 (189人) よくできている (122人) 大体できている
 (49人) あまりできていない (18人) できていない (10人) わからない

必要度 (45人) あまり必要でない (17人) 必要でない (21人) わからない

◎ (生徒 388人中) 私は、家庭で読書をしている

実現度 (116人) よくできている (78人) 大体できている
 (83人) あまりできていない (98人) できていない (13人) わからない

必要度 (53人) あまり必要でない (38人) 必要でない (32人) わからない

■ (保護者 102人中) 子どもは家庭で読書をしている

実現度 (13人) できている (20人) 大体できている
 (34人) あまりできていない (35人) できていない (0人) わからない

必要度 ほとんど、とても必要であるまたは、やや必要である

▼ (教職員 16人中) 七条中学校の読書活動は、生徒が学校以外でも読書する習慣につながるものになっている

実現度 (1人) よくできている (9人) 大体できている
 (3人) あまりできていない (2人) できていない (1人) わからない

必要度 (1人) あまり必要でない あとはすべて必要である、またはやや必要であると回答

◎ (生徒 388人中) 七条中学校の学びは社会に出たら生きるものだと思う

実現度 (20人) あまりできていない (10人) できていない (33人) わからない

必要度 (18人) あまり必要でない (6人) 必要でない (26人) わからない

◎ (生徒 388人中) 先生たちは「わかる・できる・楽しい」授業をしている

実現度 (161人) よくできている (169人) 大体できている
 (37人) あまりできていない (11人) できていない (10人) わからない

必要度 (255人) とても必要である (99人) やや必要である
 (7人) あまり必要でない (9人) 必要でない (17人) わからない

■ (保護者 102人中) 七条中学校は、子どもに「わかる・できる・楽しい」授業をしている

実現度 (11人) よくできている (60人) 大体できている
 (13人) あまりできていない (2人) できていない (16人) わからない

自己評価	分析 (成果と課題)
	(成果)・感染対策により、一斉指導の形式が増えたが、その分徹底した基礎固めができ「知識・技能」の観点の値が高い傾向になったと考えられる。 ・昨年度後半から生徒指導の三機能を強化し(学年の重点を決定), 3学期には授業規律の徹底ができたため、引き続き新年度前半には初めから落ち着いて取り組むことができた。

- ・来校された方々からは、学校環境・授業・生徒・教職員の様子のどれにおいても落ち着いた良い雰囲気であるという言葉をいただけている。
- ・制限が加わっている中でも、生徒は「わかる・できる・楽しい」授業と概ね捉えている。
- (課題)・協働的な学びがほとんど行えず、「思考・判断・表現」の観点が、どの学年も低い傾向になった。また、ICT機器の活用も順調に行っていたが、メンテナンス等使用できない期間が影響し、意見交流などが思うようにできなかつた。「個」の学びと「協働的」な学びのバランスをとることが課題である。
- ・家庭での学習時間・読書時間の多い1年生は学力が比較的高く、どちらも少ない2年生・3年生は低い傾向にあった。とりわけ家庭での学習時間は2年生が極端に少ないので、家庭での読書・学習を習慣化することが課題。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ICT機器の活用により、知識につながる内容を自主的に進められるようにする。
- ・協働的な学びを、「思考・判断・表現」の観点に照らし合わせ取り入れる。教科会において、生徒につけたい力

を何でどのように学ぶことでつけるのかを再度見直す。

- ・家庭学習の習慣化に向け、比較的時間を費やせる予習の内容を授業で活用することにより定着をはかる。
- ・家庭での読書の習慣化に向け、学校での朝読書の徹底並びに、委員会活動や教科での図書館の利用、図書資料の活用などICTと共に存させる。合わせて言語活動の充実も意識する中で「読む力(読解力)」につながることを強化する。
- ・「わからない・できない」と感じている生徒が「わかった・できた」を実感できるよう、学習会や未来スタディなどの場面を活用し、少しでも生徒の学びたい学習に近づく支援にする。これをさらに通常の授業に活かし個別最適な学びを深められるようにする。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価アンケート
- ・来校者助言、保護者意見
- ・学習確認プログラムテスト
- ・生徒ふりかえり

学校 関 係 者 評 価

学校関係者による意見・支援策

学校運営協議会(書面報告)により済ませています。

書面での回答では、中間報告ということもあり、特にご意見はありませんでした。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己 評 価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者による意見・支援策

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

- ・「誰一人取り残さない」というSDGsの理念等も踏まえ、多様な価値観を認め、互いに尊重し合い助け合う教育の推進。豊かな感性・情操を育む教育に取り組む。
- ・集団での学びの場である学校教育の中で、生徒が望ましい人間関係を築き、集団の一員として協力する態度や資質を身につける。
- ・人間関係作りの場を意図的に提供することで、すべての生徒の自己有用感を育み、予防教育的生徒指導を推進する。
- ・「全ての生徒が安心して通える学校作り」の実現

具体的な取組

- ① 道徳教育の充実。新学習指導要領の趣旨・内容に対する正しい理解を共有し、適切な評価を行う。
- ② 小学校と連携し、9年間を見通した系統的な人権学習を推進する。
- ③ 支え合い高め合う集団作りの推進・多様性を理解する姿勢の涵養・学校教育のあらゆる場面で「命を大切にし人権を尊重する心」を育む。人権学習プログラムのカリキュラムデザインをはかる。
- ④ 小学校や地域とも協働し教育課程の中ですべての子どもの自己有用感を育む予防的生徒指導に取り組む。
- ⑤ 組織的生徒指導を行うため、校内指導体制を整え、SCや関係機関との連携などチームで指導する。内・外部資源の積極的活用をすすめる。
- ⑥ 総合育成支援教育への理解を深め、家庭・学校・地域が一体となり個に応じた適切な指導を実践し、学校で学ぶ理念が生徒の社会参画・社会の一員である意識を高めるものになるようとする。
- ⑦ 学校生活において、生徒自身の集団生活における規律や規範意識、礼儀、礼節を高めることを目的とした生徒会活動を推進する。
- ⑧ 生徒会活動や学級活動等における話し合い活動を通して自主・自律・自治の力を高め、行事の企画や運営・参画を通じて学校や学級への所属意識を高める。
- ⑨ 望ましい人間関係づくりの場を意図的に提供することで、すべての生徒の自己有用感を育み、予防教育的生徒指導を推進する。
- ⑩ LD等支援の必要な生徒や不登校生徒とその保護者への組織的な働きかけを行うとともに、総合育成支援教育の観点からも幅広く対応し、生徒を取り巻く環境そのものが共生社会の実現となるようにする。

深い生徒理解と、個に応じた支援により、問題行動や不登校の状態にある生徒が将来的に社会とのつながりを自らもてるようにする。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・クラスマネジメントシート
- ・道徳ふりかえり
- ・キャリアパスポート

上記を関連付け、生徒自身のメタ認知力をはかる

- ・不登校生徒・LD等特別支援教育の必要な生徒の人・学校・社会とのつながりを分析
- ・学力向上プランで示したアンケート

中間評価

各種指標結果

学校評価アンケートより※概ね良い評価であるが、「誰一人取り残さない」の理念から「できていない」と捉えている人数に着目している。

◎ (生徒 388 人中) 先生たちは、私の良いところをほめるなどして、自信をもつよう正在する

実現度	(139 人) よくできている	(175 人) 大体できている
	(35 人) あまりできていない	(17 人) できていない
必要度	(28 人) あまり必要でない	(4 人) できていない

■ (保護者 102 人中) 七条中学校は子どもの良いところをほめるなどして、自信をもたせようとしている

実現度	(18 人) よくできている	(70 人) 大体できている
	(8 人) あまりできていない	(2 人) できていない
必要度	(1 人) あまり必要でない	(0 人) 必要でない

◎ (生徒 388 人中) 先生たちは、私に最後までやり抜くことの大切さを伝えている

実現度	(185 人) よくできている	(156 人) 大体できている
	(24 人) あまりできていない	(5 人) できていない
必要度	(20 人) あまり必要でない	(7 人) 必要でない

■ (保護者 102 人中) 七条中学校は子どもに最後までやり抜くことの大切さを伝えている

実現度	(12 人) よくできている	(63 人) 大体できている
	(8 人) あまりできていない	(2 人) できていない
必要度	(1 人) あまり必要でない	あとはとても必要であるまたはやや必要であると回答

▼ (教職員 16 人中) 自分は生徒が失敗を恐れず挑戦し努力できるように働きかけている

実現度	よくできているまたは大体できていると回答
必要度	とても必要であるまたはやや必要であると回答

▼ (教職員 16 人中) 自分は、生徒が最後までやり抜きうれしいと思えるよう支えている

実現度	(1 人) あまりできていない	あとはよくできているまたは大体できていると回答
必要度	とても必要であるまたはやや必要であると回答	

◎ (生徒 388 人中) 七条中学校ではルールやマナーの大切さを伝えている

実現度	(14 人) あまりできていない	(6 人) できっていない
必要度	(8 人) あまり必要でない	(11 人) 必要でない

◎ (生徒 388 人中) 私は「おはよう、ただいま」などのあいさつが進んでできる

必要度 (21 人) あまり必要でない (10 人) 必要でない (11 人) わからない

◎ (生徒 388 人中) 私は「ありがとう、ごめんなさい」などの言葉が素直に言える

必要度 (16 人) あまり必要でない (10 人) 必要でない (13 人) わからない

◎生徒 他の項目に比べて必要度 (高), 実現度 (低) の差が大きい

①自分の将来・進路のことを家庭で話す → ■保護者も 必要度 (高) 実現度 (低) の差が大

②自分の考えや意見を発表したり書いて伝える

◎生徒 他の項目に比べて必要度 (低), 実現度 (低)

家庭でのできごと・友達・勉強のことを先生に話す

◎生徒 「自分のこと」と「人のこと」で比較

人のことを大切にしている (大切に思う) > 自分のことを大切にしている (大切に思う)

必要度 必要でない (15 人) 必要でない (37 人)

◎生徒 実現度 (高) ■保護者 実現度 (低)

学校の出来事・友達・勉強のことを家庭で話している

自己評価	分析 (成果と課題)
	<p>(成果)・教職員が意識的に行っている「良いところをほめる」「最後までやり抜き、うれしいと思えるよう支える」は、生徒・保護者共に実現度が高く、学校の思いが伝わっていると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・<u>自分以外の人</u>に対することは、比較的実現度も必要度も高く、集団の中で関わりを学ぶことができていると思われ、「集団の学び」を意識した活動の成果と考える。・<u>道徳通信の発行</u>により、他学年・他クラスにいる他者の考えを共有することができていることや、配布物ならびにホームページ掲載により、保護者・地域の方にも見る機会となることで、中学生の心の状態を少しでも可視化し知ってもらうことにつながっている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・実現度の高い内容において、保護者・教職員は必要度も高いが、生徒は必要ではないと捉えている人数が多く、「必要と思える価値観を養う」ことが今後の課題である。これらの実現度は外的要因によって実現できていると捉えられ、よりいっそうの内面への働きかけを工夫する必要がある。・項目を比較すると、自分自身に関わることをうまく伝えられていない、相談できていないという人数が多い。今後「自分のことを伝えられる・表現する」ようになり、相談をしながらも自分自身で方法を考え進んでいけるよう導けるかが課題である。・クラスマネジメントシートでは「クラスのつながり」が高いと「自己開示」の値がやや低く、「クラスのつながり」がやや低いと、「自己開示」が高い傾向があるため、このバランスの高低差の大きいことが課題である。((6) いじめ防止の取組と重なる)・学校で話す(相談する)機会が、教育相談以外にほとんどないため、大きなことほどすぐに伝えられない場合がある。日ごろから生徒が教職員に安心して話せる(相談できる)環境にしていくことが課題である。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「集団の学びの中で、自分の出し方をどのように調整していくか」を後期のクラスづくりや学年行事、日々の教科の中で意図的に取り入れる。クラスのつながりの中での自己開示が安心して行えるよう、集団の中で認められる場面、受け入れられる場面を増やす。 ・学年・クラスの中での「自己有用感」を高められるように生徒企画・発信の場面をより多く設け、役割が一人ひとりに必ずあるように集団づくりを進める。 ・必要度の低さの改善に向け、外的に価値を与えるのではなく、内面に効果のあることを意識して働きかけをおこなう。特に道徳の時間において、より内面の揺さぶりを意識したものにしていくようする。また、良い行いに対して認め褒めることはこれまででもしているが、今後その時の感情をつけ加えることを意識的に行う。 ・教職員と生徒の日常の関係づくりを深めていく。普段からひとり一人の生徒をよく見ていることそのものを伝え認める。学級通信などのお便りをはじめとし、日常の会話にも気付いたことを入れるようにする。
学校 関 係 者 評 価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・クラスマネジメントシート ・道徳通信内容

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育の充実・食に関する指導に推進と、基本的な感染症対策の徹底に向け、教職員・生徒の意識化を図る。 ・子どもに必要な居場所や取り組みを提供できる「子どもを育む環境」を整える。
--	---

- ・生徒自身が自らの健康に関心を持つとともに、学校や地域において危険を予測し、主体的に危険を回避する力や、適切に行動できる資質や能力を身につける。
- ・心身の健康に関心を持ち、生涯にわたって健康を保持増進できる自己管理能力を身につける。

具体的な取組

- ① 新型コロナウィルス感染症等の感染症に対して、教職員が最新の知見をもとに感染症を理解し、生徒が感染症のリスクを自ら判断しそれらを踏まえた行動がとれるよう、感染症対策と教育活動の推進の両立に取り組む。教育活動の「目的」を明確にし、活動の精選も合わせて進める。
- ② 教科・領域活動・生徒会活動・体育学習・運動部活動、保健指導等を連動させることで「保健教育」「食教育」をより効果的に推進し自ら予防できる知識と実践する力を身につけるようにする。
- ③ 毎日の健康観察により生徒の欠席状態や心身の健康状態について把握し、必要に応じてSCや外部機関との連携を行い、早期に対応する。
- ④ 生徒保健安全委員会による常時活動（アルボースとトイレットペーパーの補充）と、心身の健康についての啓発活動を指導する。
- ⑤ 健やか教育係の会議を2か月に1回開催し、生徒の健康に関する情報交換をする（例：感染予防、睡眠、食事、運動、生活リズム、SNSの使用等）。また、それにもとづいた内容の保健だよりを随時発行する。
- ⑥ 性教育を各学年が適切なテーマで行えるよう、サポートする。指導案の作成は各学年が行う。
- ⑦ 健康上の緊急事態発生時に迅速な対応できるよう、救急対応やエピペン等に関する教職員研修を実施する。
- ⑧ 学校教育全体を通して計画的に安全教育・防災教育・飲酒・喫煙・薬物に関する指導を展開する。これらが総合的に子どもの生き抜く力につながるようカリキュラムをデザインする。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・心と体のアンケート
- ・学力向上プランで示したアンケート
- ・健康観察と保健室来室状況での要因分析
- ・生徒会保健安全委員会の各アンケートと連動した啓発活動

中間評価

各種指標結果

学校評価アンケートより

「生活習慣につながること」

◎ (生徒 388 人中) 私は朝食を食べてから登校している

実現度 (18人) あまりできていない (17人) できていない (9人) わからない

必要度 (18人) あまり必要でない (11人) 必要でない (12人) わからない

■ (保護者 102 人中) 子どもは朝食を食べてから登校している

実現度 (5人) あまりできていない (1人) できていない

必要度 全員とても必要またはやや必要と回答

◎ (生徒 388 人中) 私は6～8時間の睡眠時間をとっている

実現度 (32人) あまりできていない (26人) できていない (9人) わからない

必要度 (15人) あまり必要でない (4人) 必要でない (15人) わからない

■ (保護者 102人中) 子どもは6~8時間の睡眠時間をとっている

実現度 (11人) あまりできていない (1人) できていない (0人) わからない

必要度 全員とても必要またはやや必要と回答

◎ (生徒 388人中) 私はパソコン・スマホ・タブレットの機器を使うとき、家庭のルールを守っている

実現度 (43人) あまりできていない (19人) できていない (36人) わからない

必要度 (26人) あまり必要でない (10人) 必要でない (19人) わからない

■ (保護者 102人中) 子どもはパソコン・スマホ・タブレット等の機器の使用で、家庭のルールを守っている

実現度 (36人) あまりできていない (15人) できていない (1人) わからない

必要度 全員とても必要またはやや必要と回答

◎ (生徒 388人中) 私はテレビ・ビデオ・DVDを見る時、時間など家庭のルールを守っている

実現度 (42人) あまりできていない (15人) できていない (55人) わからない

必要度 (31人) あまり必要でない (10人) 必要でない (33人) わからない

■ (保護者 102人中) 子どもはテレビ・ビデオ・DVDを見る時、時間など家庭のルールを守っている

実現度 (27人) あまりできていない (10人) できていない (1人) わからない

必要度 (1人) あまり必要でない あとは全員とても必要であるまたはやや必要と回答

▼ (教職員 16人中) 七条中学校は、生徒の基本的生活習慣を整える(朝食や睡眠)ための呼びかけや指導をしている

実現度 (3人) あまりできていない (0人) できていない (1人) わからない

必要度 全員とても必要またはやや必要と回答

▼ (教職員 16人中) 自分は、生徒がパソコン・スマホ・タブレット・テレビ・DVD等の機器の使用で家庭・学校のルールを守るよう、その都度または継続的に指導している

実現度 (1人) あまりできていない (0人) できていない (1人) わからない

必要度 全員とても必要またはやや必要と回答

「心とからだのアンケート」より

1学期と2学期を比較するとストレス度の高い値を示している人数がどの学年も増加している

「保健室来室状況」より

1学期と2学期を比較すると、1日あたりの来室者数が緊急事態宣言発出以後どの学年も増加している

「昼食指導」より

各学年で「少食または偏食」と思われる状況がわずかに見受けられる。また、以前と違い前を向いて黙食のため、交流や楽しく会話をする場にはなっていない。

自己評価

分析（成果と課題）

（成果）・食育放送や食育資料作成配布など教職員と保健安全委員会が連携し、積極的に行うことができた。

・養護教諭が「子どもが考えた気持ちを楽にする 23 の工夫」のラミネートを保健室前に貼り付けたことにより、来室した生徒が自分で行動を選ぶ場面を見られるようになった。

・感染症対策の知識が深まり対策の意識が高くなったため、感染拡大防止につながる行動変容が見られた。

（課題）・食事・睡眠・睡眠や生活習慣に影響するスマホ・TVなどのルールに対し、教職員や保護者は高い必要度を示しているが、子どもは実現度の低さに加え必要度も低く、大人の意識との差が課題である。また、できていないという捉えが、保護者の割合に対し子どもの割合が少なく、目指す状態に差があることも課題である。

・コロナ対策において、家庭・学校共に行動制限がかかったことや、学級の絆が強くなる行事の中止など、協働的な学びの場や、仲間との交流が減った。ストレス度の高さと重なり、機器を介してのコミュニケーションがつながる手段になっていることが課題である。

分析を踏まえた取組の改善

・子ども自身が必要性を理解し自ら改善できるように、啓発・発信を大人だけでなく委員会など子どもからの動きを増やす。

・行動制限のある中でも、協働的学び、仲間との交流の機会を取り入れるようにし、学年単位の代替行事を行えるよう企画する。

・保護者と教職員が生徒と関わる際に、生活習慣の改善や家庭のルールの必要性を伝え、目指す姿を合わせる。これらはエリア 4 校のグランドビジョンと重なるため、引き続き重点的に行う。

・防煙教育や性に関する指導など○○教育として行うことが、一方的な知識伝達にとどまらず、生徒自身の意識の変容や行動変容につながるよう計画し実践する。これらを保健体育科や家庭科などの教科指導とも連携し、日常の生活につなげる。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価アンケート
- ・心と体のアンケート
- ・保健安全委員会のアンケート
- ・保健室来室状況と健康観察
- ・生徒ふりかえり・まとめ

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

学校運営協議会（書面報告）により済ませています。

書面での回答では、中間報告ということもあり、特にご意見はありませんでした。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（4）学校独自の取組

重点目標

社会性を発揮できる子の育成

「自他の生命と人権を大切にする子ども」

エリアで、小中共通した学習規律を設定。そこから自他を認める豊かな人権感覚を育む。

「社会性を身につけ、他者とともによりよく生きようとする子」

エリアで、児童生徒の目標としての「子どもの本気」の実践。

- ・私たちは、お互いに思いあって相手を大切にします。
- ・私たちは、自ら学び自ら习います。
- ・私たちは、自分で考えて行動します。

大人（教師）が手本となり、挨拶・ルール・マナーなどを実践していく「大人の本気」の実践。

- ・大人がすすんでいきさつを交わし、人とのつながりを大切にした地域をつくります。
- ・大人がルールやマナーを守り、模範となる行動をとります。
- ・大人が正しいことを伝え、子どもの健全育成をめざします。

自校の具体的な取組

○毎月一回の「エリア校長会」の開催による、小中一貫グランドビジョン（小中一貫構想図）の作成・取組状況の確認・成果と課題の分析。

七条中学校エリア「子どもの本気 大人の本気」のポスター作成と、配布。

○学期ごとの「小中主任会」（教務主任・研究主任・生徒指導主任・児童会生徒会担当）の開催による、エリアの取組企画・進捗状況の確認。

○小中交流を通じた、自立・自律の礎となる授業づくり、主体的対話的で深い学び・個別最適な学び・協働的な学びをめざした授業実践。

○「自己有用感」を育む、児童生徒の交流体験学習（授業体験・部活動体験・育成学級交流会など）の実施。

○「規範意識」を育む、生徒児童を主体とした「あいさつ運動」の実施

*エリア共通の行動目標として、生徒が自覚的に実践し、人間関係作りや社会参画に生かせるようにする。

*児童会と生徒会とで交流。リーダーの育成と相互理解を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・各アンケートのエリア内分析
- ・エリア各学校からの情報発信

- ・交流の広報活動
- ・エリアの学校評価分析

中間評価

各種指標結果

コロナ禍で交流等ほとんど実施できていないため、アンケートから読み取れるものを示すこととする
学校評価アンケートより

▼ (教職員 18 人中) 自分は生徒の見本（ロールモデル）になっていると思う

実現度 (2 人) よくできている (11 人) 大体できている
(3 人) あまりできていない (0 人) できていない (2 人) わからない

必要度 全員とても必要、やや必要

■ (保護者 102 人中) 七条中エリア 4 校では、ルールやマナーの大切さを指導できている

実現度 (14 人) よくできている (64 人) 大体できている
(7 人) あまりできていない (2 人) できていない (15 人) わからない

必要度 (2 人) わからない あとは、とても必要またはやや必要

■ (保護者 102 人中) 七条中エリア 4 校では授業改善や学力向上に取り組んでいる

実現度 (17 人) よくできている (50 人) 大体できている
(9 人) あまりできていない (3 人) できていない (23 人) わからない

必要度 (3 人) わからない あとはとても必要またはやや必要

◎ (生徒 388 人中) 七条中学校の学びは社会に出たら生きるものだと思う

実現度 (20 人) あまりできていない (10 人) できていない (33 人) わからない
必要度 (18 人) あまり必要でない (6 人) 必要でない (26 人) わからない

■ (保護者 102 人中) 七条中学校の学びは社会で生きるものになっている

実現度 (10 人) あまりできていない (0 人) できていない (16 人) わからない

必要度 全員とても必要またはやや必要であると回答

▼ (教職員 16 人中) 七条中学校の学びは社会で生きるものになっている

実現度 (3 人) あまりできていない (0 人) できていない (1 人) わからない

必要度 全員とても必要またはやや必要

自己評価

分析（成果と課題）

（成果）・「エリア校長会」の開催による、小中一貫グランドビジョン（小中一貫構想図）の作成・取組状況の確認ができた。

・七条中学校エリア「子どもの本気 大人の本気」のポスター作成と配布により、エリア全体での意識が高まり地域や保護者への啓発にもつながった。

（課題）・計画していた具体的な取り組みが中止になり、交流そのものができなかつたため、エリア各校の単独実施に変わり、エリアの良さを活かせる場面があまりなかつた。

・保護者や地域の方々からすると、小学校と中学校の比較になることがあるが、子どもに関わる

	<p>エリアの大人として保護者・地域・教職員がまとまり社会の担い手育成を意識する必要がある。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアのグランドビジョンをふまえ、取組をより地域・保護者の願いや思いが活かされたものにする。 ・一緒に行うことをする目的ではなく、将来の地域の担い手として、地域づくりを意識した内容につながるような活動を取り入れる（総合的な学習の時間など） <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・エリア4校の学校評価分析 ・総合的な学習の時間の評価
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校運営協議会（書面報告）により済ませています。</p> <p>書面での回答では、中間報告ということもあり、特にご意見はありませんでした。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p>

（5）教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的を明確にし、スクラップ＆ビルトの感覚を教職員一人一人が意識する。 ・勤務時間内での仕事の仕方を考え、タイムマネジメントする。 <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議は前もって資料の提供とタイムマネジメントにより終わりを決める。また、何を議論するのか明確にする。 ・研修は、まとめて行うものと、少しづつ必要に応じて行うもの、その時々で行うものにまとめる。 ・情報共有などの校内伝達と、外部からの連絡を校務支援システムの活用により見やすくする。 ・留守番電話平日18時30分とし、セット時刻を19時台までとし、ホワイトボードに示し職朝で伝える。予定期刻1時間前に退勤予定の声かけを行う。 ・意識改革や時間短縮につながる授業改善を組み合わせた研修を行う。
--	--

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員勤務時間
- ・年休取得率
- ・ふりかえり等意見

中間評価

各種指標結果

- ・時間外勤務平均時間数

4月を基準 5月－12時間 6月 －5時間 7月－18時間 8月 －43時間

9月 －18時間 1学期と比較し9月の時間外勤務時数及び人数の減少

- ・年休取得推進日は全員取得（中体連運営役員を除く）

- ・夏季研修において各自の働き方をふりかえり、整理と見直しを行い2学期からの目標を立て実践。

アンケート

▼ (教職員 17人中) 時間だけでなく自らの仕事内容の精選をしている。

実現度 (1人) よくできている (11人) 大体できている (4人) あまりできていない

(0人) できていない (1人) わからない

必要度 (1人) あまり必要でない あとは全員必要と回答

自己評価

分析 (成果と課題)

(成果)・個人だけでなく学年団においても声かけや仕事の分担・精選ができ、退勤時間が早まっている。

・コロナ禍の工夫とも重なるが、共有のための時間を「目的」思考からできるように変化している。

(課題)・退勤時間は全体に早まっているものの、持ち帰り仕事になっている人数は増えている。

・個人の時間は短くなっているが、学校全体で捉えると出勤時刻（朝2時間）・退勤時刻（夕2時間以上）と12時間以上にわたっている。

・個人のタイムマネジメントをすると勤務形態の違う教職員との共有がうまくいかないことがある。

・教職員集団としての学びがコロナ禍で思うようにできず、個人による解釈の差が生じることもある。

分析を踏まえた取組の改善

・方法論から「目的」思考に変化してきているので、さらに「教育効果」から精選ができるようになる。行事の精選や見直しも教職員がしたいことから生徒への「効果」のあるものを意識していく。

・「教職員の情報共有」を学年団ベースに、教科担任や非常勤教職員へ漏れなく伝えることを徹底する。

・教職員集団内において「学び」を「活用」「共有」できるよう、研修のマネジメントを引き続き行う。

・持ち帰り仕事を勤務時間内に終えるための方法やスクラップの仕方を共有し、精選を実践するためのふりかえりを隨時行う。

・個人の勤務時間の差が出すぎないよう、早朝と夕刻の目安を提示し学校全体の勤務時間で捉える意識をする。

	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間 ・持ち帰り仕事の確認と精選内容 ・ふりかえりの内容 ・PDCA サイクルの CA から PD の流れ確認 ・学年団や分掌での声かけや分担による精選内容確認。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 学校運営協議会（書面報告）により済ませています。 書面での回答では、中間報告ということもあり、特にご意見はありませんでした。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善

（6）いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ未然防止のための学習環境の整備、生徒同士の絆づくり、主体的な活動の充実 ・早期発見・積極的認知のための日常の観察と調査の活用 ・深い生徒理解による、手遅れのない対応と心の通った指導
具体的な取組	「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
(取組結果を検証する) 各種指標	<ol style="list-style-type: none"> ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ② 学校いじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。 ③ 生徒アンケート③④⑦⑩およびクラスマネジメントシート活用 ④ 児童生徒・保護者の訴え（アンケート含む）や相談内容を共有している ⑤ 保護者や学校運営協議会等に学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明周知している

中間評価

各種指標結果	
学校評価アンケート	

「学校に楽しく通えているかどうか」

◎ (生徒 388 人中) 七条中学校に私は楽しく通えている

実現度 (33 人) あまりできていない (18 人) できていない (17 人) わからない

必要度 (13 人) あまり必要でない (11 人) 必要でない (16 人) わからない

■ (保護者 102 人中) 七条中学校に子どもは楽しく通えている

実現度 (8 人) あまりできていない (4 人) できていない (2 人) わからない

必要度 (1 人) わからない あとはすべてとても必要またはやや必要と回答

▼ (教職員 16 人中) 七条中学校に生徒たちは楽しく通えている

実現度 (1 人) あまりできていない (0 人) できていない (1 人) わからない

必要度 全員とても必要またはやや必要と回答

「いじめや暴力を防止できているのか」

◎ (生徒 388 人中) 七条中学校はいじめや暴力を許さない学校だと思う

実現度 (19 人) あまりできていない (6 人) できていない (34 人) わからない

必要度 (5 人) あまり必要でない (5 人) 必要でない (15 人) わからない

■ (保護者 102 人中) 七条中学校はいじめや暴力を許さない学校づくりに努めている

実現度 (6 人) あまりできていない (2 人) できていない (12 人) わからない

必要度 全員とても必要またはやや必要と回答

▼ (教職員 16 人中) 七条中学校は、いじめや暴力を許さない学校だといえる体制になっている

実現度 (2 人) あまりできていない (0 人) できていない (1 人) わからない

必要度 全員とても必要またはやや必要と回答

「生徒一人ひとりを大切にしているか」

◎ (生徒 388 人中) 七条中学校は生徒一人ひとりを大切にしていると思う

実現度 (24 人) あまりできていない (9 人) できていない (28 人) わからない

必要度 (12 人) あまり必要でない (7 人) 必要でない (23 人) わからない

■ (保護者 102 人中) 七条中学校は子ども一人ひとりを大切にしている

実現度 (4 人) あまりできていない (2 人) できていない (10 人) わからない

必要度 (1 人) わからない あとはとても必要またはやや必要と回答

▼ (教職員 16 人中) 七条中学校は生徒一人ひとりを大切にしている

実現度 (1 人) わからない あとはよくできているまたは大体できていると回答

必要度 全員とても必要またはやや必要と回答

「折り合う力や、対話する力があるか」

◎ (生徒 388 人中) 私は、自分とは違う意見や少数意見があるとき、対立せずに取り入れ方を考えようとしている。

実現度 (45 人) あまりできていない (14 人) できていない (38 人) わからない

必要度 (19 人) あまり必要でない (12 人) 必要でない (37 人) わからない

▼ (教職員 16 人中) 生徒が話し合うとき、違う意見や少数意見に対し、良さをいかしたりまとめることができるよう指導している。

実現度 (1 人) あまりできていない あとはよくできているまたは大体できていると回答

必要度 全員とも必要またはやや必要と回答

自己評価	分析（成果と課題）
	<p>(成果)・クラスマネジメントシートより「クラスのやすらぎ」の値が全クラス高かった。行事等が行えない中でも、学級担任や学年団の工夫によりクラスの中の安心感を保つことができた。</p> <ul style="list-style-type: none">・学校評価アンケートでは、教職員の必要度と実現度の自己評価の値が高い。 <p>(課題)・クラスマネジメントシートでは「クラスのつながり」が高いと「自己開示」の値がやや低く、「クラスのつながり」がやや低いと、「自己開示」が高い傾向があるため、このバランスの高低差の大きいことが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none">・学校評価アンケートでは、同じ事象の質問に対し、教職員の評価はほぼ高く、低いものはほとんど出現していないが、保護者の評価と生徒の評価の低い割合が、教職員に比べてやや多い結果となっている。教職員ができていると捉えていることでも、生徒・保護者からすると違って見えていることや伝わり方・捉え方のズレがあると考えられ、理解をすること、それらの精度を高めていくことが課題である。また教職員や保護者が必要と思っていることでも、生徒は必要ないと思っている割合が高いので、生徒自身の意識を高めることが課題。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none">・折り合う力や対話する力は一朝一夕にできるわけではないため、学習活動や日々の生活に意識的に取入れるようにする。・事実確認の際の深い理解と「対処・対応」の内容が正しく伝わるよう丁寧な説明を心がける。・クラスや学年で、自己開示をしながら子ども同士のつながりが築けるような集団づくりをする。・クラスのまとまりが必要な学年の行事、集団の取組を取り入れ、一人ひとりが関わりや所属感を実感できるように企画する。・生徒指導の三機能を取り入れ、学年で重点を決定し、それを取り入れた授業・生活改善を行う。 事象が起きた場合の当事者をとりまく、まわり（集団）の力をつける。生徒自身が
学校関係者評価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none">・クラスマネジメントシート値の経過とバランス・学校評価アンケートの数値のうち教職員・保護者・生徒の低い値の差・生徒会目安箱（ふりかえりアンケート）の内容・各ふりかえりの内容
	学校関係者による意見・支援策
	学校運営協議会（書面報告）により済ませています。 書面での回答では、中間報告ということもあり、特にご意見はありませんでした。

最終評価

自己	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策